

オンラインセミナー「留学生の研究とキャリアプラン」  
(3/17(日) 13:00~16:00、オンライン)

## イントロダクション

### 【このセミナーで考えたいこと】

- ・留学生は、「日本語の研究」と「将来」について、どのような「強み」を持っているか。
- ・その強みを生かすためには何が必要か。

### 【構成】

- ・発題1「他者と向き合う(1):日本語と向き合う」 建石始(神戸女学院大学)
  - ・発題2「自分と向き合う(1):自分の母語と向き合う」 井上優(日本大学)
  - ・発題3「他者と向き合う(2):教員と向き合う」 陳秀茵(東洋大学)
  - ・発題4「自分と向き合う(2):自分の将来と向き合う」 王安(法政大学)
- (休憩)
- ・海外在住の日本語研究者のアドバイス(アンケート報告)
  - ・全体討論

### 【発題者紹介】

- ・建石始(神戸女学院大学) <https://researchmap.jp/read0134917>  
専門:現代日本語文法、日本語教育文法、類義語分析、日中対照研究  
好きなことば:一期一会
- ・井上優(日本大学) [https://researchmap.jp/INOUE\\_Masaru](https://researchmap.jp/INOUE_Masaru)  
専門:現代日本語の文法・意味、文法・意味の日中対照研究  
好きなことば:中庸
- ・陳秀茵(東洋大学) <https://researchmap.jp/g0000220075>  
専門:現代日本語文法、日本語教育、漢字漢語  
好きなことば:雨降って地固まる
- ・王安(法政大学) <https://researchmap.jp/readANN>  
専門:対照研究、現代中国語文法、認知言語学(主体性・主観性)、形容詞の意味と機能  
好きなことば:敬天愛人

## 発題Ⅰ「他者と向き合う（Ⅰ）：日本語と向き合う」

建石 始（神戸女学院大学）

- ・留学生は「日本語に対して素朴な疑問を持てる」という強みがある。
- ・その強みを生かすためには「どうすれば素朴な疑問が研究対象になるか」を考えることが必要。そのための方法の一つにコーパス調査がある。

### Ⅰ. 私の経験から

- ・1993年、大阪外国語大学（中国語専攻）に入学。学部3年次から中国語学ゼミ（杉村博文先生）に所属。
- ・“在黑板上写字”と“字写在黑板上”のように、“在+場所”が動詞に前置される場合と後置される場合があることを不思議に思い、卒業論文のテーマとする。
- ・縁あって日本語教育と関わりを持つ。日本語の教科書と中国語の教科書で用語や文型の配置・配列が異なることを知る。その時、「日本語文法と中国語文法の橋渡しはできないものか」と考えたことが、その後の基本的な問題意識となる。
- ・中国語教育・外国語教育ワークショップ「『やさしい』は『やさしくない』（神奈川大学、2023年11月3日）に参加。「やさしい中国語」より「やさしい日本語」のほうが取り組みが盛んなことを知り、「中国語よりも日本語のほうが回りくどい言い方をするから、『やさしい日本語』のほうが研究の必要性が高いのかも！」と思った。このような問題意識もいずれ何かの研究に結びつくかもしれない！

#### ○私の経験から言えること

- ①「研究の種」はいろんなところに落ちている。それに気づくためには、どんなにつまらなさそうなことでも素朴に疑問を感じる感性が重要だが、母語よりも母語以外の言語のほうがそのような素朴な疑問を持ちやすい。
- ②おもしろいかつまらないかは、研究してみないとわからない。素朴な疑問から一歩先に進むには、試しに何らかの調査を行うことが必要。
- ③試しに何らかの調査を行う場合、一人でいろいろな試行が自由にできるコーパス調査は最適。

### 2. 「素朴な疑問」から「研究」へ

- ・中国語を母語とする日本語学習者、日本語を母語とする中国語学習者の多くは「日中同形語」に対して関心を持つ（のではないか）。
- ・日中同形語の分析を行ってみたいが、どの同形語を取り上げるべきか？
- ・コーパスがあれば、試しにいろいろな語について調べてみたうえで、考察対象を決めることができる。

## ○建石(2018)の場合

- ・日本語の「発生」に結びつく名詞は、「事故、災害、損害、被害、火災、地震、事件」など、マイナスの意味の名詞が圧倒的に多い。(山崎 2016)
- ・中国語の“发生”はどうか？
- ・中国語の“发生”に結びつく名詞は、“事件、事故、疫病、問題、現象、行為、情況、事情”など。「発生」ほどマイナスの意味の名詞と結びつくわけではない。
  
- ・このような例は他にないのか？ 試しに「進行」と“进行”を調べてみよう！
- ・日本語の「進行」に結びつく名詞は、「高齢化、円高、病気、核家族化、癌、ゲーム、少子化」など。
- ・中国語の“进行”に結びつく名詞は、“工作、比赛、改革、活动、计划、谈判、战争、工程、项目、程序”など。
- ・日本語の「進行」の意味として、「物事が進むこと」や「何かが進展すること」が想定されやすいが、結びつく名詞は悪い意味やマイナス評価の名詞に偏る。中国語の“进行”は悪い意味やマイナス評価の名詞と結びつくことはそれほど多くない。

## ○研究の展開

- ・一般論として、日中同形語の中にはコロケーションがよく似ているものとあまり似ていないものがあるのではないかと？
- ・「拡大する」と“扩大”の主語は、いずれも「範囲」「范围」、「規模」「规模」、「格差」「差距」といった名詞が上位にきており、非常によく似ている。
- ・「増加する」と“增加”の主語は、「人口」「人口」、「需要」「需求」、「輸出」「出口」は重なっているが、“增加”の1位の“収入”、3位の“企业”は「増加する」の主語の上位には出てこない。むしろ“増加”の主語と「増える」の主語がよく似ている。
- ・いろいろな動詞を調査しながら、取り上げる同形語を決める。

建石始(2018)「対照言語学的分析」、森篤嗣編『コーパス演習で学ぶ日本語学—日本語教育への応用—』朝倉書店

建石始(2019)「コロケーションに注目した日中対照研究—「発生」と“发生”、「進行」と“进行”を例に一」『中国語話者のための日本語教育研究』10、中国語話者のための日本語教育研究会

建石始(2020)「コロケーションに注目した日中同形動詞の対照研究—「拡大する」・「広げる」と「扩大」／「増加する」・「増える」と「增加」を例に一」、江田すみれ・堀恵子編『自動詞と他動詞の教え方を考える』くろしお出版

山崎誠(2016)「コーパスが変える日本語の科学—日本語研究はどのように変わるか—」『日本語学』35-13、明治書院

## 発題2 「自分と向き合う(1)：自分の母語と向き合う」

井上 優 (日本大学)

- ・留学生は日本語以外の言語を知っている。
- ・その強みを生かすためには、「言語」の研究をやっているという意識を持ち、日本語研究と外国語研究の両方について、幅広く「耳学問」をすることが重要。

### 1. 私の経験から

- ・1986年、大学院入学。国語学専攻の同級生2名はいずれも中国人。
- ・意味論ゼミ(類義語の意味分析)で、彼らに中国語をテーマにすることを提案。
- ・彼らは当初「日本語について学ぶために日本に来たのに」としぼっていたが、実際にやってみたら、すぐに母語について考えることのおもしろさに気づく。
- ・彼らは日中対照研究をテーマに選び、国語学と中国語学の教員・大学院生と話をしながら、研究を進めた。おもしろいことが次々と見つかるのがうらやましかった。
- ・井上自身は中国語は素人だったが、彼らと話をしながら中国語について考えるのはおもしろく、自分が考えたことがけっこう当たるのがおもしろかった。
- ・それは大学院修了後も続き、いろいろな形で中国語について「耳学問」をしたり、自分なりに考えて議論したりしているうちに、日本語と中国語の対照研究の形になった。

#### ○私の経験から言えること

- ①言語を分析するセンスを養うためには、母語について考えることが重要。
- ②母語の分析で養われたセンスは、母語以外の言語について考える際にも役立つ。
- ③対照研究に限らず、2つの言語を視野に入れると(耳学問を含む)、その分、疑問や気づきが増え、それが研究を育てる栄養分になる。
- ④2つの言語を視野に入れて研究するとは、2つの言語を関連づけて考えることであり、それぞれの言語について専門家のように研究することではない。

### 2. 母語と母語以外の言語を関連づけて考える

- ・母語以外の言語の現象について考える際に、母語の現象がヒントになることは多い。

(1) A：最近我感到身体有点不舒服。

(最近体調があまりよくないんだ。)

B：那么，你到医院找医生看一看，怎么样？

(意図した意味：それでは、病院に行って診てもらったらどう?)

(日本の中国語教科書の会話文)

(张英 2000:52、日本語訳は引用者)

- (2) 中国人のコミュニケーションの習慣からすると、もし友人から体調がよくないということを聞いたら、通常は友人を気づかう口調で彼に意見を述べるか、単刀直入に病院に行くよう勧めるかするだろう。例：“是吗？你应该去医院看看！（そうなの？病院に行ったほうがいいよ）”、“是吗？快去医院看看吧！（そうなの？早く病院に行きなよ）”。特に近い間柄であれば、気をもんだ口調で相手を問いつめるだろう。例：“是吗？你怎么不去医院看看？（そうなの？なんで病院に行かないの？）”。（略）相手に病院に行くよう意見するのに“怎么样”（どう）を用いるのは、相手に責任を負わせるという印象を与える。それゆえ、文全体が友人に対する気づかいや思いやりというニュアンスにならない。（張英 2000:52、原文中国語）

- ・「どう？」は「…したらどう？」の形で「助言・忠告」を表せる。
- ・“怎么样？”は「…するのはどう（思う）？」という「意見求め」。（井上 2018）

- (3) a. だったら、田中さんに相談してみるのはどう？（どう思う？）  
b. だったら、田中さんに相談してみたらどう？（それがよいのではないか？）
- (4) a. 体調がよくないなら、病院で診てもらうのはどう？（どう思う？）  
b. 体調がよくないなら、病院で診てもらったらどう？（そのほうがよいのではないか？）
- (5) a. ??あなた、少しは大学の教員らしくするのはどう？（どう思う？）  
b. あなた、少しは大学の教員らしくしたらどう（なの）？（そうすべきではないか？なぜそうしないのか？）

- ・「…したら（どう）？」「…すれば（どう）？」が「助言・忠告」を表すのはなぜか？
- ・「…したらどう？」に限らず、中国語では疑問文の使用が不自然なところで、日本語では疑問文が自然に使えることが多い。なぜか？（井上 2022）

- (6) 妻：雨が降ってきたよ。駅まで迎えに行こうか。  
夫：（「ありがたい。迎えに来てもらおう」と思い）  
a. じゃ、迎えに来て。よろしく。／你来接我一下吧。  
b. じゃ、迎えに来てくれる？よろしく。／#你能来接我一下吗？

- ・2つの言語を別々に研究するのではなく、2つの言語の種々の現象を関連づけて考えることにより、研究が広がる。
- ・対照研究をする・しないに関係なく、「他の言語ではどうか？」と考えることは重要。

井上優(2018)「「語用」か「文法」か—張英(2000)の議論の再検討—」『言語と文明』16、麗澤大学大学院言語教育研究科

井上優(2022)「行為要求表現の形式と意味—日本語と中国語の場合—」『敬語の文法と語用論』開拓社

張英(2000)「語用与文化」《汉语学习》、2000年第3期

### 発題3 「他者と向き合う（2）：教員と向き合う」

陳 秀茵（東洋大学）

- ・留学生に対しては教員が「この学生は自分にはない発想や見方を持っている」と思ってくれるので、比較的自由に試行錯誤ができる。
- ・その強みを生かすためには、「ずうずうしく、たくましく、素直に」指導教員と研究に向き合うことが重要。

#### 1. 私の経験から

- ・2013年に大学院入学。2016年博士後期課程に進学。主指導1名、副指導2名。
- ・博士後期在学中に、教員の移籍等により、主指導を含め、2名が交代。
- ・博士論文はA先生とB先生の指導の下で仕上げた。お二人からは常に異なる角度からのコメントがなされ、それに応えるのが容易ではなかった。
- ・お二人とも校務で多忙を極めたため、論文の相談の機会を作るのに工夫が必要だった。
- ・一方で、A先生の科研費研究の打ち合わせに参加することができ、他大学の先生方や学生さんと繋がりができた。博士後期進学後は学会や研究会、他大学との共同合宿で多くの先生方と話ができた。
- ・また、B先生からは大学全体の運営、プログラムの推進、大学人として求められる素質のようなものを雑談でいろいろと聞くことができ、仕事に役立つ内容が多かった。

#### ○私の経験から言えること

- ①自分の研究に詳しくない人を含め、多くの人から指導を受けることが重要。
- ②自分の研究に詳しくない人に説明し納得してもらう力は、早い段階から意識的にトレーニングしたほうがよい。
- ③日本の大学教員は校務で多忙。指導やアドバイスを求めたい場合は積極的にアプローチし、「この学生は自分にはない発想や見方を持っている、おもしろい。よく頑張っているから応援したい」と思わせることが重要。
- ④学生時代にできた研究者との繋がりは、研究を続けていくための財産。

#### 2. 先行研究から

- ・大学院教育における教員と学生とのマッチングプロセス（島・安部 2010）
  - ①教員と学生が時間をかけて互いを選び合う「恋愛結婚型」（米国）
  - ②試験の成績と面接で教員が学生を選抜する「見合い結婚型」（日本）
- ・「見合い結婚型」は教員側にとっても情報交換が不十分であり、マッチングがうまくいっていないことが明らかにされている。（島・安部 2010）
- ・人間関係、自由度、楽しい雰囲気、先輩がすすめるかどうかなどは、研究テーマより大事なこと。（坪田 2010）

- ・研究室選択に有用な情報の提供がほとんどなく、研究室の研究内容だけでなく、研究室固有のしきたりや雰囲気などがわかりにくい。(加藤・角田 2009)

#### ○先行研究から考えられること

- ①留学生にとって、Researchmap や大学ホームページなどの限られた情報で大学や指導教員を決めることは大きな賭けだが、指導教員とうまくいくかどうかは、結局は指導教員と誠実にコミュニケーションできるかどうかにかかっている。指導教員とうまくいっているとすれば、それは自分の日頃の行いの賜物。
- ②教員と学生が互いに学び合うには時間が必要。その間は何年間も時間と空間を共有する研究室の他のメンバーと良好な関係を築くことが重要。
- ③研究は研究室の枠に束縛されるものではない。指導教員とうまくいっているかどうかに関係なく、他の研究室や他大学の教員・学生に指導・助言を求めてもよい。

### 3. 留学生の悩み相談から

【悩み】指導教員が中国語に詳しくないので、適切な指導をいただけない。

【回答】研究室を出たら中国語に詳しくない人がほとんど。中国語に詳しくないとわからない研究は限られた人にしか見てもらえない。「指導してもらおう」ではなく「指導を引き出す」という気持ちで教員と話をし、中国語に詳しくない人でもわかるように研究内容を説明できる力をつけよう。

【悩み】指導教員が忙しすぎて／ゼミに人が多すぎて、指導時間が少ない。

【回答】Out of sight, out of mind. 10分でも15分でも指導教員を捕まえる工夫をして、「丁寧に、ずうずうしく、こまめに」進捗報告と課題の相談をしよう。もちろん、短い時間を有効に活用するための十分な準備が前提。他の学生に対する教員のコメントを自分にも関係するものとして聞くことも重要。

【悩み】指導教員は内容面のコメントしかせず、日本語のチェックをしてくれない。／指導教員が日本語のチェックしかせず、内容面のコメントをもらえない。

【回答】内容面のコメントは基本的に指導教員しかできない。日本語のチェックは研究室の他のネイティブにお願いしよう。教員によっては、内容面の修正の前に「まずは日本語」と考えていることもある。日本語をチェックしてもらえたら感謝すべき(社会人になったら誰もチェックしてくれない)。

加藤真紀・角田英之(2009)「日本の理工系修士学生の進路決定に関する意識調査」科学技術政策研究所・第1調査研究グループ

島一則・安部保海(2010)「日本のリーディング大学院の教育—物理学に注目したマイクロレベルでの日米比較から—」『大学院教育の将来—世界の動向と日本の課題』、広島大学高等教育研究開発センター

坪田一男(2010)『理系のための研究生活ガイド—テーマの選び方から留学の手続きまで—(第2版)』講談社

## 発題4 「自分と向き合う（2）：自分の将来と向き合う」

王 安（法政大学）

- ・留学生は日本語と外国語の両方ができる分、研究についてもキャリアについても、いろいろな方面と潜在的な縁がある。
- ・その強みを生かすためには、頭で考えるだけではなく、何か行動を起こし、実践を通じて、自分がやりたいこと、自分に向いていることを見極めることが重要。

### 1. 私の経験から

- ・就職のしやすさを考えて、大学は経済学部を選択し、大手会計事務所に入社。仕事に関して努力はしたが、興味が湧いてこなかった。
- ・子供の時から言語に強い関心があり、日本のドラマを見たり、日本人の友人ができたことをきっかけに、会計の仕事をしながら日本語の勉強を始めた。
- ・勉強が進むにつれ、日本語や日本文化に対する興味が強くなり、日本語や言語学について研究したいと思うようになった。
- ・研究のことはよくわからなかったが、自分の性格や適性（自分で考えることが好き。根気よく一つのことに集中できる。好奇心と知識欲が旺盛、など）をよく考え、言語学をやることを決意。仕事をやめて日本に留学。
- ・以来、「自分が本当にやりたいことは何か」、「自分は何に向いているのか」、「どうすれば自分の適性を生かせるか」を常に問い続けて、自分の将来と向き合い、研究とキャリアを積み重ねてきた。

#### ○私の経験から言えること

- ①研究者になるためには「チャンスを逃さない」ことが必要。そのためには、将来の自分について目標（長期・短期）を立てて努力するとともに、一定水準の研究をコンスタントに発表し続けることが必要。
- ②動機と意志が明確でないと研究は続かない。自分に向いていない研究も長続きしない。研究者を目指すのであれば、「どのような研究をすれば将来有利か」「流行りの研究テーマは何か」を考えるよりは、「自分は本当に（このテーマ・言語現象について）研究したいのか、追究したいのか」、「自分は言語研究全体の中で何ができるのか」をよく考えるべき。
- ③一方で、研究も仕事も、実際にやってみないとわからないところがある。頭だけで考えるのではなく、いろいろなことにチャレンジしながら、自分がやりたいこと、自分に向いていることを見極めるのがよい。

### 2. 研究とキャリアの「成長」

- 研究は「問題発見→問題設定→考察→解決→新たな問題の発見…」という素朴な作業を丁寧に繰り返しながら、少しずつ根本的な問いに迫っていくもの。



- ・日本語の感情形容詞に見られる人称制限は「他者の感情は認識できない」ことが理由とされる。中国語の感情形容詞には人称制限が見られないとされるが、実際はどうか？
- ・中国語の感情表現にも「話し手のその場その時の感情」を表出するものがあり、その場合は人称制限が生じる。(王安 2006, 2018)

- (8) a. 私はうれしい。／\*彼女はうれしい。  
 b. 我很高兴！／她很高兴！
- (9) a. (我)真高兴！／\*她真高兴！  
 b. 真让人高兴！／\*真让她高兴！  
 c. 你这么高估我，真让我高兴。(北京大学的语料库)

- ・(9b, c)の中国語文は使役構造。他の言語ではどうか？
- ・日本語・中国語・韓国語・英語・ドイツ語の感情表現の構文パターンを見ると、中国語とドイツ語は典型的に異なるが、使役構造で「話し手のその場その時の感情」を表出することが多い点は共通。(王安・上原 2020) (→感情表現の類型論的研究)

- (10) Das freut mich aber! (ドイツ語) (王安・上原 2020)  
 そのこと 喜ばせた 私を まあ  
 (うれしいわ！) (直訳：まあ、そのことは私を喜ばせるわ。)  
 (村上春樹(1982)『羊をめぐる冒険』(日本語版、ドイツ語版))

- ・現在の問い：
  - ・人称制限以外の、主観性を反映する言語現象
  - ・日本語・中国語および他言語の形容詞の意味機能

○研究と同様に、キャリアも、現場でさまざまなことを学びながら「次の一歩」を考えると、いうことを繰り返して、少しずつ積み上げていくもの。

(私の場合)

- ・日本語学科出身ではないので、日本語教育関連の仕事を探すのは不利。
- ・言語学と対照言語学の専門知識があり、中国語母語話者であることから、言語学(対照研究)・中国語研究・中国語教育という方向がありうる。
- ・場所に拘らずまずは地方で教養中国語教育に従事し、そのあと中国語専門教育。(島根大学外国語教育センター、関西学院大学)
- ・専門科目教育や研究指導にも興味があり、言語学・対照言語学の専門家になることを目標として、研究実績を積み重ねた。その結果、岡山大学、法政大学文学部で機会を得た。

王安(2006)「感情事象モデルに基づく感情表現体系の研究—日中感情表現の対照による試み—」博士学位論文、北海道大学

王安(2018)「中国語の<主観性>の再考察—使役表出文を例として—」、大橋浩ほか(編)『認知言語学研究の広がり』開拓社、pp. 35-50

王安・上原聡(2020)「感情表現の構文パターンと感情の捉え方に見る言語表現の多様性と共通点—日韓中英独語を対象に—」『日本認知言語学会論文集』第20巻

## 海外在住の日本語研究者のアドバイス

(いただいたコメントを整理)

### 1. 仕事

- ・帰国前に考えていたよりも忙しい。教育・研究以外の業務も多い。
- ・いろいろな面でリズムが早く、ついていくのに必死。
- ・帰国すれば日本語教育を担当することが多い。日本語に関係する業務も多い。
- ・日本語能力の維持・向上に努めるとともに、日本に関係することに広く関心を持つ必要がある。
- ・日本語を学ぶ学生に社会で求められる多様なスキルを身につけさせるためには、教師自身がより広い視野で指導できることが必要である。
- ・国内における日本語教育の地位を高めるために、日本語教師を目指す人の増加と日本語教育の質の向上を常に意識する必要がある。
- ・英語で授業ができる能力をプラスアルファの技能として持っているといよい。

### 2. 他の研究者との関係

- ・外国人が一人で日本語学関連の研究を行うのは困難。学術書や論文も日本にいるときのように入手できない。
- ・日本で共同研究ができる日本人の友人を作ることが望ましい。
- ・大学院生のときは、指導教員や大学院の同期・先輩・後輩とのオープンなコミュニケーションが研究上の障壁を乗り越える大きな助けとなっていたが、帰国して教員になってみると、気軽に相談できる相手が少ない。
- ・既存のネットワークを大切にし、関係を維持・発展させることが、教員として充実したキャリアを築く鍵である。学会も人間関係を広げる絶好の機会である。

### 3. 日本語研究の位置づけ

- ・日本の研究は小さなところから大きな洞察を得ることに重点を置くことが多いが、国によっては大きな視点（理論）から小さなものを見ることに重点を置く。
- ・日本語研究界の活動は盛んだが、国内の他の言語の研究者に関心を寄せてもらいにくく、内部での活動に限られる。学会が地域や人脈により細分化されていることもある。
- ・日本の言語文化について研究する場合でも、日本語に束縛されることなく、自国あるいは世界の言語文化も視野に入れた研究ができるようになってほしい。
- ・留学中に自分の研究を完成させるとともに、日本語研究以外の研究分野を含め、自国の研究界の動向に広く注意を払って視野を広げ、自分の研究が自国の政策や研究界の動向とどのように関連づけられるかを考えることが重要。

### 4. 評価とキャリア形成

- ・大学での評価は、教育実践の経験よりも、研究成果（国内で高く評価される学術誌への論文の掲載）や研究プロジェクト（競争的資金）の獲得が重要。

- ・日本語関連の研究はなかなか適切に評価されない。国内で高く評価される学術誌（中国の場合、C刊、SSCI）に日本語関連の論文が掲載されることは少ない。
- ・研究プロジェクトの方向性やテーマが政策に影響される面がある。プロジェクト遂行のための事務作業も多く、研究にあてられる時間は限られる。
- ・研究プロジェクトの申請には年齢制限があることが多い。年齢が高いとさまざまな制約を受ける可能性がある。
- ・教育に関しても、講義コンペでの受賞や教育改革への貢献などが求められる。

## 5. まとめ

- ・学生は「教わる」立場。「研究する」ことが課題。職につくと「教える」立場になり、「研究を続ける」ことが課題になる。
- ・帰国すると次の3つが劇的に変わる。
  - ①「日本の日本語研究界」からの距離が遠くなる。
  - ② 競争相手に「日本語研究の外の世界」が加わる。
  - ③「評価者」も変わる。